

トモ工学園です。この私の子ども時代のことをそのままに書いたのが、『窓ぎわのトットちゃん』です。書いてからもう30年以上も経っているのに、今でも日本や中国やいろいろな国で、たくさんの方たちが読んでくださっていて、とてもうれしく思っています。

『窓ぎわのトットちゃん』のなかのお話にもあるとおり、私は、小学校1年生で、その学校から来ないでくださいといわれました。退学ですね。それで、その後、トモ工学園に入りました。

校長の小林宗作先生は、私がトモ工にいるあいだじゅう、「君は、本当は、いい子なんだよ。」と語り続けてくださいました。このことは、どんなに私の、これまでを支えてくれたかわかりません。

この度、安曇野ちひろ美術館がある松川村が、トットちゃん広場をつくって、電車の教室を再現して、ひとりひとりの子どもの個性を大切に考えるトモ工学園の精神を受け継いだすてきな公園にしよう、という計画をつくってくださいました。それならば、古い電車があるので、ゆずってあげましょうって長野電鉄さんがいらってくださいって、私もその電車を信濃川田駅まで実際に見に行きました。

そうしたら、その電車は、トモ工学園で勉強した教室の電車とほとんど同じで、本当にびっくりしました。見た瞬間に、これなら今度できる」「トットちゃん広場」に置いたら、すてきな、って思いました。

公園ができるのは、2016年の夏ですが、みなさんとこの電車にたくさん乗ってもらって、楽しく過ごしていただきたいです。そして、公園では松川村の畑の先生たちと一緒に、野菜をつくったり、果物を収穫したり、飯盒炊爨や木登りや、私がトモ工学園でしたようないろいろな体験をしてみたいと思っています。

小林宗作先生は、私たちにいつも、「みんないっしょだよ。いっしょにやるんだよ。」とおっしゃっていました。だから、トモ工で私たちは病気や障害を持っている子も、何でもいっしょにやりました。

これからできるこの安曇野ちひろ公園、トットちゃん広場にいらしたら、たくさん楽しんでいこうとして、そして、世界の子ども、世界の人たちと、みんないっしょにやろうっていろいろな、いろいろな気持ちを、おみやげに持って帰ってくださるのをうれしく思います。

みなさんもいっしょに、そんな公園になるよう、力を貸してくださいませ。すてきく感謝です。

開園を楽しみに、どうぞ、よろこばせてください。お願いします。

黒柳 徹子



ちひろ美術館館長
黒柳 徹子